

別記

様式第1号(第8条、第9条、第12条関係)

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

令和5年 7月 31日

(宛先)
滋賀県知事

提出者

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)
滋賀県東近江市五個荘築瀬町611番地氏名(法人にあっては、名称および代表者の氏名)
株式会社 大長 代表取締役社長 大橋 知史滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例第25条第3項→第25条第4項
第27条第1項→第27条第2項において準用する同条例
第26条第1項
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項第25条第4項の規定に基づき、
[事業者行動計画を策定(変更) 事業者行動報告書を作成] したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)	株式会社 大長 代表取締役社長 大橋 知史
事業者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	滋賀県東近江市五個荘築瀬町611番地

1 事業者の概要

事業所の名称	株式会社 大長						
事業所の所在地	滋賀県東近江市五個荘築瀬町611番地						
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	1	1	4	4	※ 産業分類・細分類名称を記載 繊維整理業	
事業の概要	繊維製品の染色・整理および付加価値加工						
従業員の数	83	人	作業時間	8時間/日			
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワット以上の事業所を県内に有する事業者 <input type="checkbox"/> 従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者 <input type="checkbox"/> 任意提出事業者						
主要な設備	ボイラ	7	台	熱源設備	台	照明設備	台
	コンプレッサ	12	台	空調設備	台	その他	

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	令和1	年度	報告対象年度	令和4	年度
	終了年度	令和5	年度			

3 計画の(内容・実施状況)

計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

株式会社大長は、天然繊維を中心とした織物の加工を行い、お客様のニーズに合わせた商品の提供に努め、循環型社会の構築に寄与してまいります。

1. 事業活動を通じて環境負荷の低減に努め、環境の保全と汚染の予防に取り組みます。
2. 環境保全活動を定期的に見直し、改善に努めます。
3. 環境保全に関する法規制を遵守します。

2 取組の推進体制

環境保全担当責任者を議長とし、部長・課長・リーダー・主任をメンバーとした会議を開催し、環境保全方針の立案および策定、計画見直し立案、現状の確認、各所属への検討課題の指示を行っています。

3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

・2009年度にA重油より都市ガスに燃料転換を行い、環境負荷の低減を図る。

・高効率ボイラーの設置

・ボイラーの台数制御による負荷変動に対する省エネ

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	運用改善	ボイラー等燃焼設備の定期保守点検による性能の維持及び向上	R1～	ボイラーの定期点検を年3回実施
2	設備導入	ボイラーの送気系統の効率アップ	R1～	スチームトラップの点検と更新
3				
4				
5				

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1				
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
<p>上記取組み等により、平成23年度を基準年度とし、以下の数値目標達成を目指します。</p> <p>原単位(温室効果ガス排出量/生産量)で毎年1%削減</p> <p>なお、原単位の考え方は以下の通りです。 温室効果ガス排出量は生産量に大きく影響を受けるため、生産量を原単位の指標(分母)として設定しました。なお、実績を目標と適切に対比させるため、計画期間中の各年度の温室効果ガス排出量の算定に当たっては電気の排出係数は基準年度に固定して算出します。</p>	<p>上記取組みに加え、蒸気配管・蒸気バルブ・フランジ等の断熱強化を実施、また加工不良による再加工の低減に努力しました。</p> <p>しかし、コロナ禍の影響も軽くなり生産量が増加したため、原単位で毎年1%削減という目標に対し、前年度に比べ約5%増となり目標達成となりませんでした。</p>

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

	計画開始年度前年度の実績	実績報告					
		(R4)年度	(R3)年度	(R2)年度	(R1)年度	(H30)年度	
原油換算エネルギー使用量	kL	2,523	2,411	2,220	2,162	2,534	2,523
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂	4,781	4,368	4,078	3,980	4,677	4,781
エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	4,781	4,368	4,078	3,980	4,677	4,781
非エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	0	0	0	0	0	0
CH ₄	t-CO ₂						
N ₂ O	t-CO ₂						
HFCs	t-CO ₂						
PFCs	t-CO ₂						
SF ₆	t-CO ₂						
NF ₃	t-CO ₂						
エネルギー等原単位の推移							

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。